

データヘルスサイエンス入門プログラム 自己点検評価について

1. プログラム対象生：看護学部 令和4年度入学生、令和5年度入学生
2. 評価組織：教育の質向上委員会
3. 評価日：令和6年3月1日
4. 評価基準

- S：非常に優れた点があり、プログラムの趣旨を達成している。
- A：優れた点があり、プログラムの趣旨を概ね達成している。
- B：プログラムの趣旨を概ね達成しているが、更なる改善が望ましい。
- C：プログラムの趣旨を達成するために、改善が必要である。
- －：現段階では評価対象外

プログラムの履修・修得状況	令和4年度入学生は、全員が1年次に必修3科目を履修し、95名（96.0%）が選択科目である「コンピュータリテラシー」を履修した。2年次の選択科目である「データリテラシー演習」は42名（43.3%）が履修した。なお、本学では、認定プログラム外の選択科目を積み上げ、体系的にデータサイエンスを学ぶカリキュラムとしており、次年度の選択科目履修の可能性を示した学生は有効回答27名中17名であった。令和5年度入学生は、選択科目である「コンピュータリテラシー」を110名（100%）が履修し4科目を全員が履修した。	S
学修成果	各科目の単位認定試験において、学習目標の到達度を評価するとともに、「データ・AIの利活用と看護師の役割」について考察させたレポートによって、数理・データサイエンス・AIに対する思考面での学習成果を評価している。選択科目「データリテラシー演習」ではリアルデータを用いた分析演習を行い、レポートで評価を行った。全科目とも全員が単位認定試験に合格し、目標に到達している。	A
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	プログラム修了時に、知識、スキル、態度の3点から理解度や習熟度を測る独自の調査項目によって自己評価を行ってもらい、プログラム前後でその変化を評価している。令和4年度入学生は、1年次前・後・プログラム修了後の3時点で比較し、ベースラインから高い傾向である「AIやデータの活用により、社会に新たな価値が生まれることへの理解」、「AIやデータの利活	A

	用についての興味・関心」以外の項目は、段階的に有意な向上を認めた ($p < 0.01$)。令和5年度入学生は、プログラム前・後で比較し、ベースラインから高い回答傾向である「AI やデータの利活用について興味・関心があるか」の項目以外に有意な上昇がみられた ($P < .001$)。これは、前年度と同様の結果であった。	
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	データリテラシー演習の選択履修については、「強く勧める」5名、「履修した方が良い」12名、「どちらでもよい」5名であった。自由記述では、「実データを用いた分析は難しかったが、結果がでると達成感があった」、「データ分析の楽しさを知った」などの意見が得られた。その結果について、リテラシーレベルプログラムを修了した学生に周知し、選択履修への意欲を喚起した結果、1年生で2年次の選択科目履修の可能性を示した者は75名(76.5%)であった。	A
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本学は看護学部看護学科の単科大学であり、さらに認定プログラム構成科目5科目中3科目が必修科目であることから、全学的な履修を可能としている。大学独自のデータヘルスサイエンス入門プログラムにおいては、さらに学修を深めたい学生のニーズに対応する選択科目も設定しており、体系的にデータサイエンスを学ぶカリキュラムを構築している。さらに、学部における入門プログラムで興味関心を持った学生が大学院で学べるよう、令和5年度よりデータヘルスサイエンス看護学領域を新設した。これらの体系的なカリキュラムについて、学部入学時の教務課からのガイダンスで履修の推奨を行っている。	A
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	プログラム履修者は在学中のため、現時点での進路の評価は行っていないが、卒業後に調査を実施し、活躍状況について評価するものとする。その際、卒業生の就職先である医療機関へヒアリングを行い、教授内容についての検討を行う予定である。	—
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	外部評価委員会(地元産業界、自治体等)において本プログラムについて説明。今後のデジタル社会において有益なプログラムであるとの評価を得ている。	—

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>社会でデータや AI が活用されている事例を多く示し、特に医療現場という身近な場で実装されつつある様々な例を概観することで、これからの価値の創造に関わるための素地を養うことに意欲が持てる内容としている。とくに看護への応用について意義を見出す学生も多く、身に着けるべきスキルだと感じている。2年次に感想を述べてもらい、テキスト分析を行った結果、「楽しい」「面白い」という語が表れていた。</p>	<p>A</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「わかりやすい」授業とすること。</p>	<p>パソコン演習を通して統計学の知識の意味が理解できる授業構成とし、「わかりやすい」授業を目指している。パソコン操作スキルに自信がない学生に配慮し、「コンピュータリテラシー」を選択科目として配置し、課外でパソコンサポートクラスも開催している。1年次および2年次それぞれにプログラム修了後の感想を述べてもらい、テキスト分析を行った。「難しい」プログラムであったが、パソコンの技術や知識の理解は「できる」ようになったことが述べられ、今後「使う」ことができるスキルだと認識していた。</p>	<p>A</p>